

# 成果報告書 概要

2010年度助成 (実践期間：2011年4月1日～2012年12月31日)

タイトル	地域とのつながりを大切にした環境教育		
所属機関	上三川町立北小学校	役職 代表者 連絡先	学校長 柳澤 邦夫 0285—56—2431

対象	学年と単元：	課題
○ 小学生	・第2学年 生活科	教師の指導力向上を目指す教員研修、実験方法指導、教材開発
中学生	「いっしょにやろうよ 子どもまつり」	子ども達の科学的思考能力の向上を目指す授業づくり、教材開発
教員	・第4学年 総合的な学習 「地球を救おう」	ものづくり(ロボット製作等)による、科学分野で活躍する人材の育成
その他	・全学年 学校行事「クリーン運動」 「米づくり活動」「愛校タイム」	○ その他



実践の目的：	地域の特色を生かした自然体験活動を積極的に学習や行事に取り入れ、学校支援ボランティアや地域ボランティアに指導協力をしてもらったりすることで、児童の自然環境への興味・関心を高め、地域の自然や環境を大切に守っていかうとする心情や態度を育てる。
実践の内容：	(1) 自然体験活動を取り入れた研究授業及び研修会の実施 A ・第2学年 生活科「いっしょにやろうよ 子どもまつり」 ・第3学年 総合的な学習「北小学校 自然発見」 B ・第4学年 総合的な学習「地球を救おう」 C (2) 自然体験活動を取り入れた学校行事の実施「クリーン運動」「米づくり活動」等 (3) 学校支援ボランティアや地域ボランティアと連携した環境学習の推進
実践の成果：	自然体験活動を通して、低学年生は自然の不思議やすばらしさを学び、積極的に自然とかわらうとする態度が身に付いた。中高学年生は、身近な自然環境に関心を持つようになり、地域環境の大切さを認識して環境問題に意欲的に取り組むようになった。また、学校支援ボランティアや地域ボランティアとの連携により、学習を効果的に進めたり、環境保護の考えを地域に広めたりすることができた。
成果として特に強調できる点：	A. 集めた木の実や落ち葉等の自然物を生かした遊びやゲームを考え、保護者や下級生とお楽しむことで、自然の特性やすばらしさを学び、進んで自然に親しむようになった。 B. ゴミが自分たちの環境に与える影響や問題を調べて、オープンデーに発表することで、環境問題への関心や知識を深めるとともに、ゴミを減らし自分たちの環境を守ろうとする地域の一員としての自覚や実践力が身に付いた。 C. クリーン運動を通して、多くの児童が地域環境や自分の生活環境を見直し、環境保護に対するモラルの低下や自然破壊などの問題点に気づき、身の回りの環境保護やエコ活動などに取り組むようになった。

# 成果報告書

2010年度助成	所属機関	上三川町立北小学校
タイトル	地域とのつながりを大切にした環境教育	

1. 実践の目的（テーマ設定の背景を含む）
2. 実践にあたっての準備（機器・材料の購入、協力機関等との打合せを含む）
3. 実践の内容
4. 実践の成果と成果の測定方法
5. 今後の展開（成果活用の視点、残された課題への対応、実践への発展性など）
6. 成果の公表や発信に関する取組み
7. 所感

## 1. 実践の目的（テーマ設定の背景を含む）

本校は、田畑に囲まれた自然豊かな場所にあり、児童は、普段から自然に親しむ機会が多い。そのような地域の自然環境を生かして、伝統的に米づくり体験や愛校タイム活動（除草や環境整備活動）、クリーン運動（通学路を中心とした地域のゴミ拾い活動）などが毎年行われている。しかし、こういった自然や環境に関わる活動にどんな意義あるのかを意識して、自主的・意欲的に取り組んでいる児童は少ない。また、授業や行事の自然体験活動で得た知識や情報を自分のものとして活用したり、発信したりすることもあまりできていない。そこで、身近な自然を見直し、地域の特色を生かした自然体験活動を積極的に学習や行事に取り入れることで、自然のすばらしさや大切さに気づかせ、地域の自然や環境を守っていかうとする心情や態度を育てたいと考えた。地域とのつながりを大切にした環境教育を実践するため、学校支援ボランティアや地域支援ボランティアの方々に指導協力をお願いし、自然体験活動を効果的に行うようにしたい。そこで、「地域とのつながりを大切にした環境教育」というテーマを設定し、地域や保護者とも連携を図りながら研究を進めることにした。

## 2. 実践にあたっての準備（機器・材料の購入、協力機関等との打合せを含む）

- (1) 自然体験活動を取り入れた研究授業及び研修会の実施にあたっての準備
  - ・ 模造紙、画用紙、ラシヤ紙、マジック等の購入
  - ・ パソコン等の電子機器の購入、準備
  - ・ 学校支援ボランティアや地域ボランティアとの事前打ち合わせ
- (2) 自然体験活動を取り入れた学校行事の実施にあたっての準備
  - ・ 除草活動で使用する除草鎌やスコップ等の購入、準備
  - ・ クリーン運動実施の地域へのお知らせと協力依頼
  - ・ 田植えや稲刈りで使用する道具の購入・準備
  - ・ 自然体験活動での保護者やボランティアとの事前打ち合わせ
- (3) 学校支援ボランティアや地域ボランティアと連携した環境学習の推進
  - ・ 学校支援ボランティア室の整備（机、いす、ロッカー等や活動に必要な道具等の購入、整備）
  - ・ 学校支援ボランティアや地域ボランティア、保護者との事前打ち合わせ

### 3. 実践の内容

#### (1) 自然体験活動を取り入れた研究授業及び研修会の実施

##### 【第2学年の研究授業】

- ① 教科名「単元名」・・・生活科「いっしょにやろうよ 子どもまつり」
- ② 本時のねらい・・・お客さんに楽しんでもらえるようなお店にするにはどうしたらいいか工夫を出し合うことができる。（思考・表現）
- ③ 内容・・・地域や身の回りの自然を観察し、集めた落ち葉や木の実などを使って、みんなが楽しめる子どもまつりを開くことで、季節の変化を感じたり、自然に親しんだりする授業である。毎年地域で行われる「福祉まつり」を参考におまつりの内容や進め方を考えたり、校外学習で行った地域公園の自然集めをしたりして、地域とのつながりも大切にして学習を進めた。最後に、まとめの発表の場として保護者や1年生を子どもまつりに招いて、楽しい時間を共有できるようにした。



##### 【第3学年の研究授業】

- ① 教科名「単元名」・・・総合的な学習（かがやきタイム）「北小学校 自然発見！」
- ② 本時のねらい・・・北小学校の自然のすばらしさをみんなに伝えるための方法を考えることができる。（表現力）
- ③ 内容・・・本校敷地内の草花や樹木とふれあいながら、「みんなの北小自然マップ」を作成し、北小の自然の豊かさやすばらしさをみんなに伝える授業である。北小の校庭の樹木の名前を調べてネームプレートを作成したり、地域ボランティアの方に自然を活用した遊びを教わったりして、自然に親しむ場や機会を設定した。



##### 【第4学年の研究授業】

- ① 教科名「単元名」・・・総合的な学習の時間（かがやきタイム）「地球を救おう」
- ② 本時のねらい・・・各グループの発表をよく聞いたり、聞いた感想を発表者に伝えたりすることで、相互の活動への関心を広げたり深めたりすることができる。（課題解決力）
- ③ 内容・・・学校行事である「クリーン運動」に参加したり、社会科で清掃センターを見学したりした体験をもとに、身の回りの環境問題に関心を持ち、その原因や解決策を調べて発表し合



う授業である。自分ができる自然保護活動やエコ活動などを具体的に考えて、実践力につながるように構成した。



## (2) 自然体験活動を取り入れた学校行事の実施

### 【クリーン運動】

第1回・・・5月末に、各自治会での「ゴミ0運動」の活動日にあわせ、自治会の方々と一緒にゴミ拾いや花壇の整備等を行った。

第2、3回・・・7月上旬と11月中旬の下校時に保護者や地域の方々と一緒にゴミ拾いを行った。事前指導では、地図で通学路の安全確認をしたり、各自にめあてを持たせたりして自主的且つ意欲的に活動できるようにした。事後指導では、活動の感想を書かせたり、アンケートの答えながら自己評価をさせたりして、活動を振り返るようにした。また、毎回保護者にもアンケートに協力してもらい、感想や問題点を次回のクリーン運動にいかすようにしている。拾ったごみは、きちんと分別して処分するようにした。

### 【米づくり活動】

粃まき・・・4月下旬に、3年生が地域ボランティアの方の指導を受けて苗床の準備と粃まきを行った。

田植・・・5月上旬に、地域ボランティアの方や保護者の方の協力を得て、全校生で田植を実施した。保護者の方が、昨年度収穫した餅米で全校生分のお赤飯を作って配布してくれた。

観察・・・各学年で生活科や理科、総合的な学習の時間などに、稲の成長を観察したり記録したりした。

稲刈り・・・10月中旬に、地域ボランティアの方や保護者の方の協力を得て、全校生で稲刈りを実施した。収穫した餅米は、来年度お餅や赤飯にして児童に配布する予定である。



### 【愛校タイム】

毎週火曜日の朝・・・日課表に、毎週火曜日の朝の時間を「愛校タイム」と位置付けて、全校生で校庭の除草や花壇の整備活動を行っている。栽培委員会が中心となって、除草した草を集めたり、花壇に水やりを行ったりして、学校敷地内の自然環境保全に力を注いでいる。

### (3) 学校支援ボランティアや地域ボランティアと連携した環境学習の推進

- 【マイ箸作り】・・・23年度は4年生、24年度は2年生が、県東環境森林事務所の方を招いて指導を受け、マイ箸作りを行った。森林の活用と大切さを理解し、エコ活動へとつながる学習となった。
- 【野菜栽培】・・・2年生の生活科の学習で、地域ボランティアの方に来ていただき、野菜づくりについて指導を受けた。野菜づくりの方法や上手に育てる「こつ」などを分かりやすく教えてもらい野菜づくりの大変さを知ると同時に収穫の喜びを体験することができた。
- 【さつまいも栽培】・・・1, 2年生の生活科の学習でさつまいも栽培を行ったが、その際、畑整備（耕し・畝作り）やさつまいも苗植えを保護者の方に協力してもらった。保護者の方の協力のおかげで、収穫したさつまいもをふかして美味しく食べることができた。
- 【化石発掘体験】・・・5年生が保護者と一緒に、県立博物館の方を招いて指導してもらい、化石発掘体験を行った。県北にある木の葉化石園の岩石をハンマーで割り、化石を発見する活動で、化石のでき方や自然のすごさ・不思議さを肌で感じる事ができた。
- 【木工教室】・・・2年生の図工「地球からのおくりもの」の学習で、地域で木工教室の先生をしている方を招き、木材や小枝、木の実、落ち葉などを使って造形遊びを行った。身近にある自然の材料で、様々な形のものが作れることを知り、自然と親しむ活動ができた。
- 【環境教育】・・・4年生の総合的な学習の時間「地球を救おう」の学習に関連して、宇都宮大学からカラスの生態研究をしている先生にきてもらい、カラスの生態や習性について講話をしてもらった。自分たちの周辺の自然が、カラスや他の生き物にとっても重要な役目を果たしていることに気づくことができ、改めて自然の大切さを認識する学習となった。



### (4) その他の環境活動

- 【アルミ缶回収】・・・美化委員会が中心となって、月2回アルミ缶回収を行っている。児童に、アルミ缶回収を呼びかけ、リサイクルの必要性や重要性を認識してもらうよう活動している。
- 【実験・観察クラブ】・・・24年度新しく環境に関わるクラブとして「実験・観察クラブ」を新設した。児童の要望や意見をもとに、栽培したい野菜や食べたい野菜を育てて観察したり収穫したりした。また、身近な廃材や廃品を利用してリサイクル工作や実験を行った。

## 4. 実践の成果と成果の測定方法

### (1) 自然体験活動を取り入れた研究授業及び研修会の実施による成果と成果の測定方法

- 「何のための自然体験活動なのか」が分かる具体的な目標を提示することで、児童は主体的・意欲的に活動に取り組むようになった。
- 教師一人一人が、あらゆる教科や行事において「地域とのつながりを大切にした環境教育」を意識して取り組むようになり、環境に対する見方や考え方を深めることができた。
- 教師が、学習のねらいや目的を明確にしたり発達段階を踏まえたりして、自然体験活動を効果的に行うようになった。
- 校内や地域の自然環境を学習の教材として見直したり開発したりして、身近な自然を有効に活用することができた。
- 環境に関わる学習や行事を通して、児童は知識だけでなく、思考力や実践力も身に付けてきており、身近なエコや自然愛護の活動に結びつくようになった。
- 自然体験活動を取り入れた授業実践後、校庭で草花や木の実などを使って遊んだり、校庭の芝生に寝ころんで過ごしたりする低・中学年生の児童の姿が見られるようになった。
- 総合的な学習で、環境教育を行った4年生は、自分たちにできるエコ活動を考え、ペットボトルキャップの回収や節電対策、登下校の空き缶集めなどの活動を自主的に行うようになった。
- 各授業での自己評価や振り返りカードには、児童の自然に対する思いや考えの変化が見られた。

### (2) 自然体験活動を取り入れた学校行事の実施による成果と成果の測定方法

- 本校の環境活動やそれに関わる学習等に、保護者や地域の方々がボランティアやゲストティーチャーとして参加してもらうことで、家庭や地域との連携を深めることができた。
- 地域の特色を生かした自然活動を学校行事や授業に積極的に取り入れて研究を進めてきた結果、自然のすばらしさや大切さを児童が実感するようになった。
- 改めて自分たちの地域を見直し、自分たちの住む地域は豊かな自然に恵まれていること、その自然を大切に守っていかなければいけないことに児童自身が気づき、環境問題を真剣に考えるようになった。
- 「米づくり活動」では、田植えや稲刈りの事後指導で、各児童に感想を書かせたが、「思った以上に田植えは大変だった。」「おいしいお米に育ってほしい。」「稲が大きく育って、たくさんお米がとれて嬉しかった。」などの感想があった。
- 「クリーン運動」では、事後指導として、活動の感想を書いたり、アンケートに答えながら自己評価をしたりしたが、児童の感想には「一人一人がポイ捨てしない気持ちを持つこと」「川の中にもゴミがあり、きれいな川を守りたい」といった自発的なものもあった。

### (3) 学校支援ボランティアや地域ボランティアと連携した環境学習による成果と成果の測定方法

- 様々な環境学習で、学校支援ボランティアや地域ボランティアの方に指導してもらったため、効果的に学習のねらいを達成することができた。
- 児童は、環境に関する様々な体験を専門的な知識や技能を持つ学校支援ボランティアの協力で行うことができ、いろいろな視点から環境に対する考えを深めることができた。
- 学校支援ボランティアや地域ボランティアの方に、本校での環境教育の取り組みを理解してもらうことができ、更に連携を深めることができた。
- 児童は、地域ボランティアと連携した環境学習によって、自分も地域の一員であるという自覚を持つようになり、地域の自然環境を守っていきたいという地域への思いが高まった。



## 5. 今後の展開（成果活用の視点、残された課題への対応、実践への発展性など）

- ・「地域とのつながりを大切にした環境教育」を今後も継続指導するにあたって、どのように発達段階や学年の学習内容を踏まえ系統立てて指導していくべきかを検討する必要がある。
- ・児童の自然に対する思いの実現や自発的な自然環境を守ろうとする活動の機会や場の設定をどのように行っていくかが課題の一つである。
- ・自然体験や環境学習で得た知識や技能を日常生活や地域・社会に、更に発信して広める方法を検討するとよい。
- ・学校支援ボランティアや地域ボランティアの方にどんどん協力・指導してもらえるような環境づくりをするとよい。今回空き教室を利用して「学校支援ボランティア室」を作り、活用が図られるようになったが、更に、地域ボランティアや保護者の方に効果的に活用してもらえるようにしたい。
- ・学習や行事に積極的に学校支援ボランティアや地域ボランティアの方に協力してもらえるよう、更に専門的な知識や技能を持っている人材を発掘していくとよい。

## 6. 成果の公表や発信に関する取組み

※ メディアなどに掲載されたり放送された場合は、ご記載ください

- ・授業参観やオープンデーに、児童の学習した「環境教育」を各学年で保護者に発表した。保護者に本校での環境教育や児童の地域自然や環境問題に対する考えを知ってもらうことができた。
- ・各学年便り等で、地域環境に関わる学習や活動の取り組みをお知らせし、保護に、理解・協力を得ている。
- ・学校便り等で、自然活動を取り入れた行事の内容や実施の様子を保護者に配布したり、自治会回覧板等で回覧してお知らせしたりした。
- ・校内の掲示板や廊下に、自然体験活動を取り入れた学習や行事等の写真や児童の感想等を掲示し、来校者にお知らせした。
- ・クリーン運動を中心とした環境への取り組みが評価され、平成24年1月27日公益社団法人食品容器環境美化協会より「優良校」の全国表彰を受け、そのことについて下野新聞で取り上げられ掲載された。
- ・環境教育を実践していく中での児童の緑化活動やそれらを支えるPTA活動が栃木県より高く評価され、平成25年2月14日栃木県と栃木県教育委員会より栃木県学校関係緑化コンクールにおいて「優秀賞」を受賞し、上三川町広報誌・広報「かみのかわ」に掲載された。本件については、宇都宮・河内地区においては「最優秀賞」を受賞した。

## 7. 所感

2年前に、この日産財団の環境教育助成制度への申し込みを行ったが、その後東日本大震災やそれに伴う福島原子力発電所の事故により、児童の環境も一時大きく変化した。本校では幸い死者や負傷者はいなかったものの、天井が落ちたり壁に亀裂が入ったりして音楽室や視聴覚室をはじめ幾つかの教室が使用できなくなった。また、見えない放射能の恐怖に、当時外遊びを控えたりマスクをして外出したりする児童の姿も多く見られた。自分たちが生活科や総合的な学習で育てた野菜が、食べられるかどうか放射能測定をして安全を確認したりもした。

その後徐々に壊れた建物が修理され、放射能の測定結果が公表され、児童がのびのびと校庭で遊ぶ姿もどってきた。もともと児童は、外遊びや自然が大好きである。私たち教師が、自然と接する機会や自然体験の場を与えれば、児童自ら自然から学んだり、自然への思いを深めたりすることができるのだと感じた。人は自然を無視して生きていくことはできない。私たちは、自然を活かし、自然に生かされていることを認識して、自然と共存していかなければならない。私たちの研究や日々の取り組みが、いつか児童の中で「人と自然との共存」「持続可能な社会の構築」といった大きなテーマに結びつくことを願っている。